

合唱団フォンス・フローリス 第3回コンเสิร์ต・スピリチュエル
Chœur Fons Floris Concert Spirituel



フランス・バロック 宗教音楽の夕べ

ジャン＝バティスト・リュリ「ミゼレーレ」
ミシェル＝リシャール・ド・ラランド「全地よ、神に喜び歌え」／「テ・デウム」

Jean-Baptiste Lully (1632-1687), Miserere

Michel-Richard de Lalande (1657-1726), Jubilate Deo omnis terra / Te Deum

2009年8月28日(金)午後7時(6時30分開場) 杉並公会堂大ホール



〈独唱と管弦楽〉古楽アンサンブル「コントラポント」(特別編成)

独唱 ソプラノ dessus 花井尚美 テノール haute-contre 上杉清仁
テノール taille 及川豊 バリトン basse-taille 根岸一郎 バス basse 春日保人

器楽 ヴァイオリン・ヴィオラ violons 小野萬里 大西律子 丹沢広樹 本多洋子

深沢美奈 多井かな 上田美佐子 小林瑞葉

チェロ basses de violon 西澤央子 高群輝夫 オーボエ hautbois 尾崎温子 篠原由桂

ファゴット basson 永谷陽子 トランペット trompette 斉藤秀範

ティンパニ timbales 堀尾尚男 テオルボ théorbe 金子浩

オルガン orgue 能登伊津子

〈小合唱〉アンサンブル・フォンス・フローリス

〈合唱〉合唱団フォンス・フローリス (指揮) 花井哲郎

前売¥2,500 当日¥3,000 学生¥1,500*

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

東京芸術劇場チケットサービス 03-5985-1707

東京古典楽器センター 03-3952-5515

サンパウロ 03-3357-8642

スペース・セントポール 03-3941-4971

全自由席 *学生券は、学生証を提示のうえお求めください

問い合わせ

フォンス・フローリス 窪田 (9~21時)

携帯電話 080-5099-3751

電子メール m-kubota@fonsfloris.com

電話・FAX 04-7140-7225

助成:文化庁 平成21年度文化芸術振興費補助金
(芸術創造活動特別推進事業) 主催:フォンス・フローリス

コンセール・スピリチュエル Concert Spirituelとは、「宗教的演奏会」を意味するフランス語で、18世紀のパリで定期的開催された演奏会シリーズの名前です。ド・ラランドをはじめとする17世紀の宗教音楽などが演奏されました。合唱団フォンス・フローリス演奏会のタイトルとして、21世紀東京版コンセール・スピリチュエルという意気込みで借用しました。ド・ラランドやリュリなどヴェルサイユ宮殿で活躍した作曲家達は 管弦楽、独唱と大規模な合唱のためのモテット、いわゆるグラン・モテ grands motets を多数残しています。このシリーズでは日本ではあまり知られていない、これらフランス・バロックの宗教作品の演奏に取り組んでいます。今回は、罪の悔い改めを魂が揺さぶられるように歌うリュリの名曲「ミゼレーレ」、ド・ラランドの躍動感あふれる喜びの歌「全地よ、神に喜び歌え」(ジュビラーテ)、そして壮大な感謝の讃歌「テ・デウム」を演奏。独唱と管弦楽には、17世紀宗教音楽を声楽と器楽で演奏する古楽アンサンブル「コントラポント」が、多数の器楽奏者を加えた特別編成で出演します。



第一回演奏会 2006年9月東京カテドラルにて

合唱団フォンス・フローリス Chœur Fons Floris

古楽声楽アンサンブルの分野で活動を続ける花井哲郎に日頃指導を受ける合唱団、声楽アンサンブルが、一堂に会して結成したプロジェクト合唱。フランス・バロックの宗教音楽を専門とし、ヴェルサイユ宮廷礼拝堂やフランスのカテドラルに鳴り渡った壮麗なモテットの響きを大合唱で再現。ラテン語の17世紀フランス式の発音、それに基づいた発声、イネガルや装飾法など、フランス・バロック特有の演奏法にこだわって練習しています。

アンサンブル・フォンス・フローリス Ensemble Fons Floris

本格的な古楽演奏を目指す若手声楽家によるアンサンブル。花井哲郎指導のもと、中世、ルネサンスからバロックまで様々な分野の声楽作品の演奏に取り組んできている。

古楽アンサンブル コントラポント Contraponto

花井哲郎をリーダーとして2005年に結成された古楽声楽家、古楽器奏者によるアンサンブル。17世紀を中心に後期ルネサンスからバロックにかけての宗教音楽をレパートリーとする。

「コントラポント」Contrapontoとは「対位法」を意味する古いイタリア語。この時代においても教会音楽の基盤であった技法として、このアンサンブルの演奏アプローチの一面も象徴している。

基本的に各パート一人ずつの編成をとり、近代的な演奏形態では捉えることの出来ない時代の音楽を、声楽家と器楽演奏家が音そのものに対するイメージを共有し、各自の独創性を生かしながらも「対位的に」一体となって演奏していくという、時代様式にふさわしいアンサンブルづくりを目指している。これまで自主公演のほか、目白バ・ロック音楽祭、NECレクチャーコンサートなどに出演、モンテヴェルディを中心としたイタリア初期バロック、シャルパンティエやド・ラランドなどフランス・バロック、シュッツを始めとした17世紀ドイツの3大S、スペインのビリャンシーコ、南米バロック時代のイエズス会の音楽などを手がけてきている。

花井 哲郎 Tetsuro Hanai (指揮)

早稲田大学第一文学部哲学専攻卒業。アムステルダム・スウェーリンク音楽院にて、オルガンとチェンバロを学ぶ。ロッテルダム音楽院において合唱指揮と管弦楽指揮のディプロマを取得。またブラバント音楽院にて古楽声楽アンサンブルをレベッカ・ステュワートに師事。またグレゴリオ聖歌の研究・演奏活動にも従事。1997年に東京にて「ヴォーカル・アンサンブル カペラ」を創設、音楽監督としてルネサンス・フランドルの宗教作品の演奏を続ける。古楽をレパートリーとするアンサンブル、合唱団、管弦楽団などを指導するほか、様々な講習会や講座の講師を務め、グレゴリオ聖歌、ルネサンス・バロックの宗教音楽の演奏と普及活動を行う。古楽アンサンブル「コントラポント」リーダー、フォンス・フローリス古楽院院長、国立音楽大学講師。



フォンス・フローリスウェブサイト
<http://www.fonsfloris.com/>



コントラポント定期公演のお知らせ

17世紀パリのクリスマス 2009年12月23日(水・祝) 午後3時開演トッパンホール

マルカントワヌ・シャルパンティエ「真夜中のミサ」、主イエス・キリスト御誕生の歌、17世紀クリスマス・ノエルほか17世紀フランス最大の宗教音楽作曲家シャルパンティエの代表作「真夜中のミサ」を中心としたプログラム。当時のパリではクリスマスの深夜にノエルを歌う習慣があり、そういった状況のもとに馴染みやすいフランス古来のクリスマスのメロディーが多数織り込まれたこのミサ曲が作曲されました。今回は間奏として短いオラトリオ、オルガン曲、さらには原曲のノエルなどを挿入して、当時の典礼を再現しつつ演奏します。【7月10日(金) チケット発売開始予定】

お問い合わせ フォンス・フローリス 窪田 電子メール m-kubota@fonsfloris.com 電話・FAX 04-7140-7225(9~21時)